

## Takedaロータリージョイントの誕生

Takedaロータリージョイントは、昭和23(1948)年5月、初代創業者、武田輝夫の考案によって生まれたものである。

横浜ゴムに勤務の傍ら、メカニカルシール式ロータリージョイントの製品に関する研究を成し、その後独立して試作機を製作、我が国におけるロータリージョイントの第1号が完成した。

当時は、あくまでも試作の域を脱し得なかったが、グループ企業増野製作所や取引先の工場に依頼し、実際に使用に耐えられるものかどうかを試してもらった程度であったが、その後、幾度も研究と改良の努力を重ね、遂に昭和30(1955)年にロータリージョイントの研究開発、製造販売会社を設立し法人企業として発足する事となった。

当時、米国より輸入された製品が多少出回っていたが、本邦に於けるロータリージョイント製品での企業化は、わが国最初の事であった。

暫らくは、困難と向かい合い幾多の苦境をさまようところとなったが、国内の産業機械の発達に伴い、Takedaロータリージョイントの高い品質と関連商品に対する注目が極度に高まりを見せ、各社にその高度な性能と品質を確認されてからは、ロータリージョイントを使用しない旧来な方法で間に合っていた生産装置も、各方面の一流産業機械に採用され始め順調に市場を占有するに至った。

製品が拡販されるに伴い、数多のユーザーの多様な要求に応えられる様、社内の技術革新が進み技術的難問題も徐々に解決されてノウハウが積み重ねられ、性能向上と共に製品は高品質化へと進化を遂げ、近年に至っては、「技術のTakeda」と評されるようになった。

今日では、国内はもとより広く諸外国に輸出され、アジアを中心として中国に海外拠点を設けてアフターサービスのネットワーク化を進めている。

この様にして発展して来たTakeda Worksは、常に我が国のロータリージョイントのトップ技術メーカーとしての地位を確立し、あらゆる産業機械に取り付けられ、多様化し高機能化が進む技術的な困難と向き合い、今日も、ロータリージョイントは小機器ながら、プラントシステムの母役としての大きな役割を十分に発揮して、お客様の要求に応え続けて行きます。